

## たまの創生総合戦略（第2期）の策定にかかる 企業等へのヒアリングについて

### 1. ヒアリングの実施について

たまの創生総合戦略（第2期）の具体的な施策を検討するため、平成31年3月19日（火）から令和元年8月27日（火）にかけて、9団体にヒアリングを行った。ヒアリングを実施した団体は下記のとおり。

実施日	実施団体
平成31年3月19日（火）	株式会社三井E&Sホールディングス
平成31年4月3日（水）	玉野商工会議所青年部
平成31年4月4日（木）	一般社団法人玉野青年会議所
平成31年4月5日（金）	ナйкаイ塩業株式会社
平成31年4月10日（水）	パンパシフィック・カッパー株式会社
平成31年4月17日（水）	玉原鉄工業協同組合
令和元年5月9日（木）	三井E&S玉野協力会
令和元年5月14日（火）	連合岡山玉野地域連絡会
令和元年8月27日（火）	玉野市立玉野商工高等学校

## 2. 企業等から得られた主な意見（基本目標により分類）

雇 用 創 出 関 連	
マッチング 支援	製造業のみならず、その他の業種も含めたマッチングの機会を支援してほしい。
	女性やひきこもり、元気な高齢者の仕事へのマッチングができないか。
	40代50代のひきこもっている方が、社会復帰できるよう支援してはどうか。
PR	市内の高校生に企業情報や仕事内容をPRできる機会を支援してほしい。
	定着率が高いなど、その企業の良さをうまくPRできないか。
	市内の高校生に市内企業をPRするためには、まずは保護者向けのPRを行うことが重要だと考える。
企業誘致	三井造船に頼りすぎではいけない。新たな企業が参入しないまちはどうかと思う。都市計画を見直し、企業誘致を検討してはどうか。
	製造業に限らず、様々な働き口を呼び込むべき。
	女性の働き口が少ないと感じる。結婚後の定住につながらないのではないか。奥さんの生活に合わせて男性は遠くても通勤する傾向にある。
その他	仕事はあるが、慢性的な人手不足である。
	求人については、民間求人サイトの活用を検討したが、結果的に費用のかからないハローワークにて募集を行っている。
	市内高卒者の市内就職率が戦略のKPIとしてあるが、そもそも高卒者の就職者数が少ないため、大学卒業後にUターン就職してもらおうという観点も重要ではないか。

移住・定住関連	
住まい	就職には住まいの対策が必要。紹介しようにも民間のアパートの家賃が高い。
	中小企業への就職者は元々手持ち資金がない人が多いため、家具付きの物件などがあれば、移住しやすいのではないか。
	独身寮を用意しているが、対象は概ね30代半ばまでとしている。
	年間15世帯ほどが社宅から退去するが、その半数は市外に転出している。
	就職・結婚・出産・進学、それぞれのステージに合わせて、居住先を探すタイミングがあると思うので、そのタイミングに合った施策を展開すべき。
空き家	空き家を10棟買い上げ、社宅として、活用しているなど企業も努力している。市も対策をしてほしい。
	空き家の解消の支援が必要だと考える。空き家が循環する手法を検討してほしい。
	空き家対策として、住宅リフォームを請け負う会社と連携し、利活用をPRしてはどうか。
土地価格	土地の価格を下げ、他市より家も建てやすくする。区画整備とか空き家の活用を進めるべき。
	宅地の値段が岡山市や倉敷市と変わらないため、より利便性の高い市外に転出する傾向がある。
若者	若者が都会にあこがれ、転出するのは仕方がない。しかし、玉野市に魅力があれば帰ってくるはずだ。
	企業でも玉野市に住んでもらうよう話をしているが、若い人からは買い物の利便性や選択できる商店数が求められている。

結婚・出産・子育て関連	
結婚・出産	出生率の向上に向けて、まずは結婚が前提ではあるが、結婚や出産に戸惑っているのは将来に不安を感じ踏み込めない状況もあると思われる。
	最近、結婚アプリで相手を見つけているケースもある。
	産科がないのは問題だと考える。小児科も充実させるべきではないか。
	出産に向けた支援、環境整備が必要である。
子育て	子育て支援に力を入れるべきである。
	延長保育をどの園でも実施してほしい。
	玉野市は、海も緑もあり、子育てしやすいと感じる。特に子育て世代に対してPRすべき。
	3世代同居を支援する方策はどうか。
	シングルマザーに対する支援を検討してはどうか。
教育	市内の小学生が少なくなっていることから、十分な教育が受けられるのか不安になる。中学校区毎に統合することはできないのか。
	子どもが高校進学するタイミングで、希望する高校への通学を考慮して市外に転出する傾向がある。
	社員の子どもが市外の高校に通う割合が高くなっているように感じる。市内の子どもが行きたくなるような魅力ある高校にしていけないといけない。
	市内の高校の魅力を高める必要があるのではないかと感じる。勉学のみならず、スポーツに力を入れる、在学中に資格が取得できる、中高一貫教育を実施するなど、特色ある学校を検討してはどうか。
医療	高度な医療を受けられる病院がほしい。子どもに何かあったとき、市外の病院を利用している。
	市内で就業している人は医療費の自己負担額3割から。さらに3%を支援してはどうか。

まちづくり・地域間連携 関連	
交通	JR等、交通の利便性を高める必要がある。
	高速道路との接続を強化してほしい。納品や出荷の頻度を増やすことができる。
施設	市の体育施設の劣化が目立つ。高齢者が安心して利用できるように、また健康寿命をのばすためにも、早急に修繕等の整備をすべき。
	みやま公園の駐車場を有料にしてはどうか。
	瀬戸内国際芸術祭の影響もあり、多くの観光客が来訪している。ホテルがもっとあってもいいのではないかと。またビジネス客の需要もある。
その他	ベッドタウン化を検討してはどうか。
	年代によりニーズが異なるため、ニーズの整理を行い、各年代にあった施策を展開すべき。
	市の施策は総花的である。もっと特化した施策を打ち出してもいいのではないかと。セールスポイントを明確にすべき。